

# 令和4年度農村RMO形成推進調査結果報告

## 調査の目的

- 「これから農村RMOづくりを進めたいが何を・どのように進めるべきかわからない」という地域、自治体にとって参考になりうる手引きを作成する。



- 1 先行して農村RMO的な取組を行っている地域から形成プロセスや成功の要因と課題を分析。
- 2 農村地域の最大の課題の1つである「人」に焦点を当て、地域住民と移住者との間のニーズや意識の差やその解消法と地域への巻き込みの方向性を分析。

成功のプロセスや要因を記載したマニュアル・事例集の作成

# 1. 農村RMO形成組織にかかる調査

# 調査対象地域

下表の20地域を対象にアンケートを実施し、回答結果をもとに5地域を聞き取り調査の対象として選定

## 【アンケート調査の選定基準】

- 農村RMO事例調査において、農村RMOの条件を満たしている(3地域)
- 同調査において、農村RMOに発展しうると判断された(15地域)
- 農山漁村を支える地域運営組織事例集に掲載されている(2地域)

## 【聞き取り調査の選定基準】

- 外部人材を活用している(移住者・地域おこし協力隊など)
- 様々な資金を活用している(直接支払制度のほかに、自治体等の交付金や事業収入など)
- 地域の課題に応じた独自の活動を行っている(農地保全に加え、福祉や生涯教育など)
- 組織体制が安定している(多様な地域の団体を巻き込んでいる、多くの住民が活動に参画している)

No	県	市	集落	団体名
<b>農村RMO事例調査における農村RMOの条件を満たす地区</b>				
1	新潟県	佐渡市	川茂	川茂見守り隊
2	石川県	七尾市	中島町鉦打	鉦打ふるさとづくり協議会
3	福井県	小浜市	宮川	一般社団法人宮川グリーンネットワーク
<b>農村RMO事例調査における農村RMOに発展しうる地区</b>				
4	新潟県	糸魚川市	西海	西海地区集落協定
5	新潟県	上越市	金谷区	上越市正善寺地区指定棚田地域振興協議会
6	新潟県	上越市	安塚区	上越市安塚区おぐる地区指定棚田地域振興協議会
7	新潟県	上越市	牧区	牧区農業振興会
8	新潟県	上越市	柿崎区	上越市黒川・黒岩地区指定棚田地域振興協議会
9	新潟県	上越市	吉川区	上越市川谷もより地区指定棚田地域振興協議会
10	新潟県	上越市	吉川区	上越市みなもと地区指定棚田地域振興協議会
11	新潟県	上越市	板倉区	上越市板倉区筒方地区指定棚田地域振興協議会
12	新潟県	上越市	清里区	上越市櫛池地区指定棚田地域振興協議会
13	新潟県	上越市	名立区	上越市名立区中部地区指定棚田地域振興協議会
14	富山県	氷見市	久目	久目地区地域づくり協議会
15	富山県	氷見市	速川	特定非営利活動法人 速川活性化協議会
16	富山県	氷見市	熊無	明和地域づくり協議会
17	富山県	射水市	金山	青井谷地区環境保全会
18	富山県	高岡市	般若野	中田地区コミュニティ協議会
<b>「農山漁村を支える地域運営組織事例集」に掲載</b>				
19	新潟県	十日町市	仙田	株式会社あいポート仙田
20	新潟県	糸魚川市	上南	上南地区地域づくり協議会

## <凡例>

- = アンケート + 聞き取り
- = アンケート



# アンケート調査内容

---

活動範囲

活動内容

設立の背景

ビジョン

人材

# 北陸の農村RMO(要素を含む組織)の特徴

- 活動範囲は旧小学校区が最多(15/20)。すべてが「ちょうどよい地域の範囲」と回答。
- 自治会や町内会との連携が最多(17/20)。行政区、公民館、老人クラブとの連携も多い。
- 地域の将来ビジョンは多くの地区で策定(14/20)。
- 活動の資金は中山間直払、多面的機能支払交付金としている組織が多数。
- 組織についての相談相手は市町村や支所の職員が最多(13/20)。
- リーダーの引継ぎや担い手不足が課題。

## 2. 人材確保にかかる調査

アンケート調査と聞き取り調査の2つを実施

- アンケート調査

金沢大学能登学舎(マイスタープログラム)修了生に対するアンケート調査を通して、地域とのかかわり・移住等の状況・マイスタープログラムの効果などを分析した。

- 聞き取り調査

アンケート調査の中から、地域に根差した活動に取り組んでいる修了生10名を抽出し、地域とのかかわりを深めるようになった経緯をインタビュー形式で調査した。

# アンケート調査及び聞き取り調査結果

## ●移住のポイント

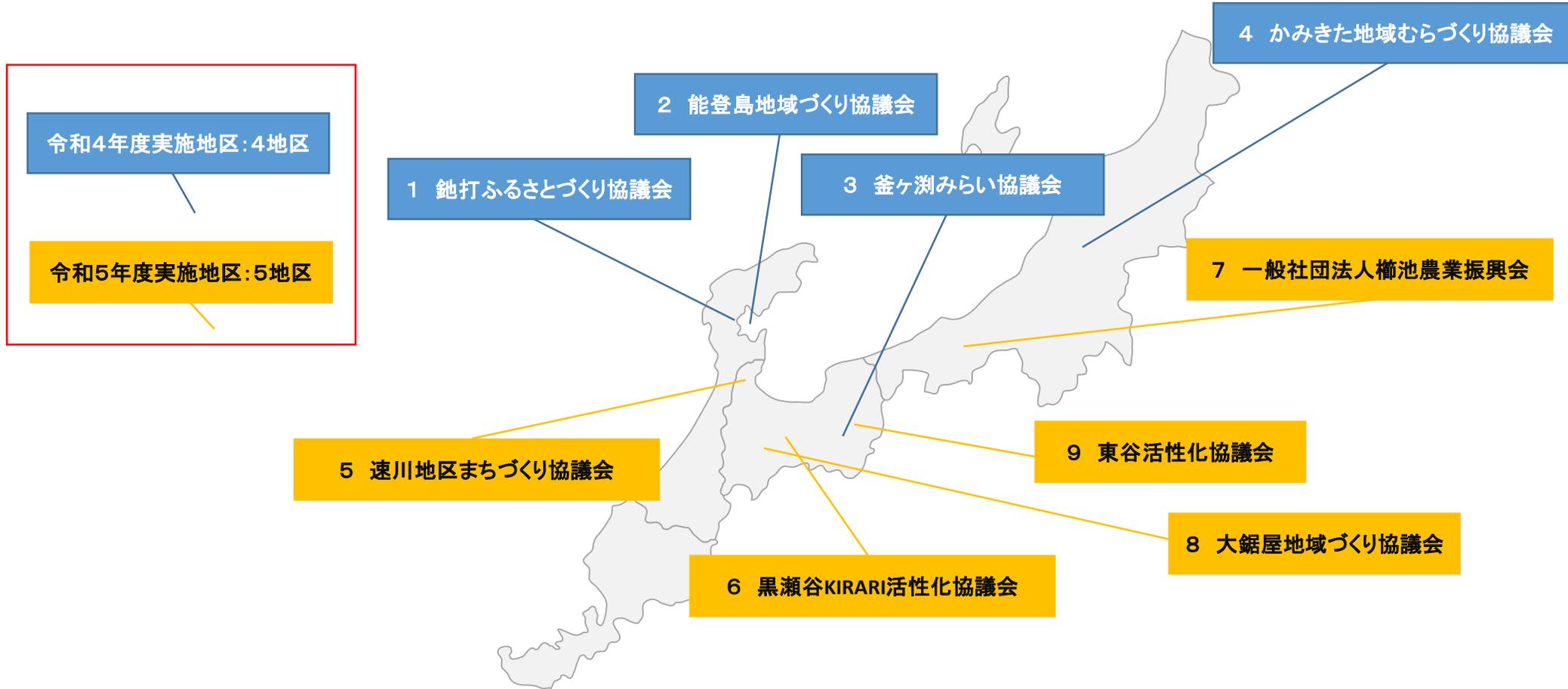
Iターンの場合には特に、やりたいことを見つけること・実現できる環境に身を置くことが重要。移住にあたっては、地域側の相談相手(世話役・指導役)とのつながりを早めにもつことが重要。行政区長・自治会長などをつなぎ、地域に溶け込むきっかけを早くもつこと(挨拶周り、歓迎会など)が人間関係を円滑に進めるポイント。

関心分野を共有できる仲間や、同世代の仲間の存在がプラスになる。地域の相談相手よりも広域なつながりで良い(定期的に会う、SNSでつながるなど)。

## ●農村RMOに対する示唆

移住者の獲得にあたっては、地域のキーパーソンと早く(移住前から)つながり、相談・受入体制を築くことと、「何が実現できるか」様々な可能性を提示することや、地域の暮らしの特徴・価値を丁寧に伝えることが重要ではないか。

# 北陸農政局管内の農村RMOモデル形成支援事業実施地区





金沢大学 能登里山里海 SDGs

マイスタープログラム

KANAZAWA UNIVERSITY NOTO SATOYAMA AND SATOUMI SDGS MEISTER PROGRAM



とは？

- 金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」は、珠洲市の研究・教育拠点「能登学舎」を拠点に行っている社会人向けの教育プログラム。金沢大学と珠洲市が共同で出資して運営し、2007年から2022年度までに232名が修了している。
- マイスタープログラムの受講生には移住者（Iターン・Uターン）の方も多く、地域の生活文化や、能登の里山里海の持つ価値を理解するきっかけになっている。

